



教のみらも一拜乃く法法を四本

に以治りし 是は念佛を行ふ一編

中聖少る我は亦三態行ふ事なり

七日系統中澄滅致し通夜中さゆり

ありつに冥夢をかりて作云十

万人没定は生れ札を國去に以るめ

よりの靈夢よまうせ是都より上里の

孫降於此... 衣紀... 開守... 出入... 乃比... 郡... 寺... 告に

詞

言く... 寺... 告に... 乃... 郡... 寺... 告に... 乃... 郡... 寺... 告に

乃... 郡... 寺... 告に... 乃... 郡... 寺... 告に... 乃... 郡... 寺... 告に

聽... 人...

新... 乃...

未付しる。唯定法生高阿弥授佛

おび文りらに教^{ミテ}とく 叔^{ミテ}四句

の文と即しそり^{ミテ}事^{ミテ}とく

おら^{ミテ}愚^{ミテ}殿^{ミテ}れ^{ミテ}わ^{ミテ}れ^{ミテ}ら^{ミテ}お^{ミテ}志^{ミテ}り^{ミテ}一^{ミテ}終^{ミテ}へ

い^{ミテ}ろ^{ミテ}く^{ミテ}終^{ミテ}て^{ミテ}お^{ミテ}せ^{ミテ}す^{ミテ}こ^{ミテ}し^{ミテ}六^{ミテ}字^{ミテ}名^{ミテ}号^{ミテ}一^{ミテ}

遍法十衆依正一^{ミテ}る^{ミテ}持^{ミテ}萬^{ミテ}行^{ミテ}報^{ミテ}念^{ミテ}一^{ミテ}遍

澄人^{ミテ}中^{ミテ}上^{ミテ}の^{ミテ}妙^{ミテ}好^{ミテ}華^{ミテ}これ^{ミテ}曰^{ミテ}句^{ミテ}云^{ミテ}文^{ミテ}れ

上^{ミテ}乃^{ミテ}字^{ミテ}あ^{ミテ}き^{ミテ}及^{ミテ}六^{ミテ}十^{ミテ}万^{ミテ}人^{ミテ}と^{ミテ}及^{ミテ}未^{ミテ}す^{ミテ}れ

あ^{ミテ}る^{ミテ}今^{ミテ}も^{ミテ}う^{ミテ}不^{ミテ}審^{ミテ}ま^{ミテ}の^{ミテ}日^{ミテ}れ^{ミテ}圖^{ミテ}と^{ミテ}も

て^{ミテ}ら^{ミテ}と^{ミテ}強^{ミテ}危^{ミテ}の^{ミテ}を^{ミテ}一^{ミテ}へ^{ミテ} 克^{ミテ}明^{ミテ}遍^{ミテ}照^{ミテ}十^{ミテ}

方^{ミテ}世^{ミテ}界^{ミテ}も^{ミテ}教^{ミテ}方^{ミテ}る^{ミテ}文^{ミテ}法^{ミテ}を^{ミテ}家^{ミテ}を^{ミテ}

り^{ミテ}終^{ミテ}う^{ミテ}に^{ミテ}六^{ミテ}十^{ミテ}萬^{ミテ}人^{ミテ}と^{ミテ}人^{ミテ}教^{ミテ}を^{ミテ}い^{ミテ}う^{ミテ}く

定^{ミテ}を^{ミテ}る^{ミテ}教^{ミテ}叔^{ミテ}い^{ミテ}終^{ミテ}り^{ミテ}心^{ミテ}地^{ミテ}を^{ミテ}

此^{ミテ}に^{ミテ}札^{ミテ}云^{ミテ}六^{ミテ}十^{ミテ}萬^{ミテ}人^{ミテ}具^{ミテ}人^{ミテ}教^{ミテ}を^{ミテ}及^{ミテ}し^{ミテ}ら

捨る 一筋子会をさるハ
則て定しる 生る終や何事も皆
しり捨て市を阿彌陀佛と
まは佛もそれもぬるとさるくさ
さあさふ乃勢汁 至誠心深心廻
向教の鐘れ勢耳にそきてる鐘や

油子妙り系法を 一十拜一丁点板
わつてさとりも迷をもむくは
そろ鐘起去程に夕陽雲よりけり
く西よりをろふ夕月のよるれ会
さるのむ夜会佛をいさやいさる
まや文行やお会仏宏聴の眠さ
さると鐘亦さる一會佛をさる

上口半地

又障の雲のわたりをたまたけおろし此
世より二世女樂れ國よてもや生れ切
うしる嬉しきに女樂れ國る
や安くさるる甚樂の量乃えしを滅
かろあはれいやぐさるる始
孫陀の國もあつたれも
頼三ろまこと此教へあはれいハ利益

上卷
至号罪すハ経乃後の世
孫陀一教とすおをる種や
ハ方法直教皆是阿孫陀仏るれ
法河なるも上人を唱印ハ法誓願寺
也とほとけや上人と一体とあつ
あり
上卷
上卷
上卷

何事にもなる
誓願寺こころに於

額をのけ上人玄山平治了了六字
の必号にる一丁新里と 日暮さ
寺なる事一を飛の地成む一上人
誓願古や赤たる教とれを六字の必
号にる一寺事一がのもようぬ
らや是も法本る乃に告と
ほりせ みるはほるこの法信を

と及はオハ何くは恒人そ
うまう及あれ石塔あ
きやまの石塔多ツ所ニ式部れ
墓と一うづしに 柶と及不審る
寸のこふふ去しし針しそと又我も
昔る此寺は 値遇乃ありハ 水を
結ふつり見

乃三つ... 名を信... 我... 佛...
 多る... 泉式部... 我...
 寺... 乃石の... 火...
 寺... 乃石の... 火...
 寺... 乃石の... 火...
 寺... 乃石の... 火...
 寺... 乃石の... 火...

口吳香薰し... 奄...
 音樂の... 舞...
 付ても... 称...
 鐘... 同...
 仏... 如...
 やる... 末... 世... 佛...
 と... 形...

色_一ら_一る_一る_一の_一世_一に_一和_一泉_一式_一部_一と_一云_一
ま_一り_一た_一れ_一佛_一果_一を_一う_一け_一や_一極_一樂_一の_一歌_一舞_一
玄_一雲_一窟_一と_一成_一つ_一た_一也_一二_一十_一又_一玄_一喜_一薩_一
百_一所_一れ_一は_一法_一王_一反_一紫_一雲_一た_一る_一は_一く_一夕_一日_一
り_一を_一帝_一の_一炷_一り_一乃_一清_一く_一山_一あ_一り_一
宴_一と_一極_一樂_一世_一衆_一子_一む_一ま_一れ_一を_一け_一り_一と_一り_一
猶_一さ_一り_一と_一相_一當_一寺_一誓_一願_一す_一や_一中_一有_一り_一
中_一

天_一智_一天_一皇_一の_一法_一苑_一法_一を_一る_一は_一慈_一悲_一万_一行_一
の_一大_一喜_一薩_一去_一日_一の_一明_一神_一れ_一は_一作_一せ_一り_一や_一
神_一と_一り_一は_一仏_一や_一り_一は_一唯_一是_一水_一波_一の_一隔_一て_一
也_一然_一と_一和_一克_一乃_一歎_一は_一海_一く_一一_一体_一の_一身_一顯_一
ま_一ま_一り_一而_一生_一海_一度_一の_一河_一本_一乎_一と_一り_一
去_一毎_一日_一一_一つ_一ら_一り_一西_一方_一淨_一去_一子_一か_一ら_一り_一
法_一の_一東_一定_一引_一接_一乃_一誓_一願_一を_一あ_一り_一

おりのす寸 望舒遠子 月孤雲の
上るや 直衣束 寸落日乃 寸と
うや 昔在 灵山乃 以公ハ 法華一佛今
西亦れ 弥陀如来 慈眼視 衆生ありハ
して 娑婆 示現 親世身 三世利益 同一
持者なり 我お 方々 慈悲 於此
上 若成 仏の 身を とう 爲世 乃人の

我力も 及行 して 法のは 如のみ
る終さ かな して も わる 衆の 衆子
豆里 くと 大の 心を 起ハ する 國
れろる けや 十悪ハ 邪れ 迷ハ の 雲も
をすれ 夫如 け月 空西 方も 雲を 了却
事 盡く 寸唯 心乃 淨去 する け
誓願 信を 打ち せり 歌 蘇の 雲 爲

もつて佛に 佛の心をせらる心なり
礼と望む所は此の所を専らとし
そのくわん法の心は人づくは乃庭
人れは子も妙なる名のとく
上巻 廣きにいゝくも 善樂の勢 吳香
薫して 花少れ雪の 袖とりて
吾にも安んじ人の利益なりと菩薩

聖なる面々に 法をよして 六字の
教とみよ 一月に 礼し給ふは ありた
まはる 幸瑞なり

